

2024年3月期 第2四半期 決算短信補足資料

(2023年4月-2023年9月)

2023年11月6日

マルハニチロ株式会社(TSE:1333)



目次

- 2024年3月期第2四半期 事業概況 3 ~ 10 ページ
- 通期の見通し・施策 11 ~ 16 ページ
- Appendix 17 ~ 24 ページ

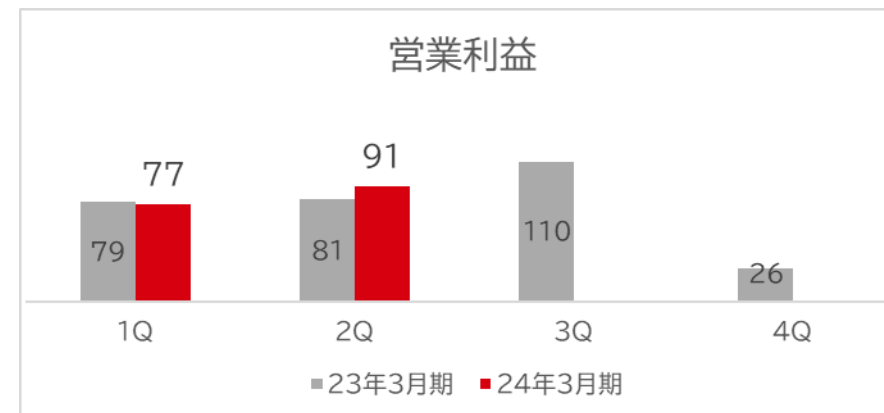
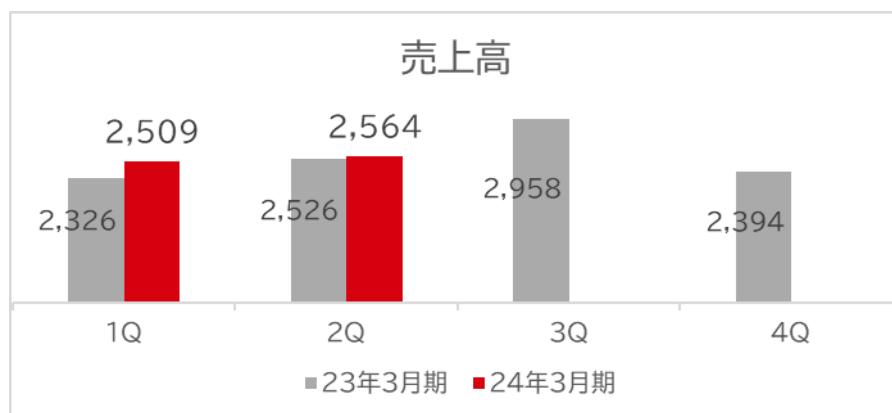
2024年3月期第2四半期 事業概況

第2四半期 決算ハイライト

魚価の高値推移や前期に実施した加工食品の価格改定を受けて、売上高は前期に引き続き最高値を更新。営業利益は、食品が増益に寄与。

(単位:億円)

	23年9月期	22年9月期	前年対比		年間計画	
			増減	増減率	計画値	計画比
売上高	5,074	4,852	221	+4.6%	9,800	51.8%
営業利益	168	159	8	+5.2%	270	62.1%
経常利益	209	212	△3	△1.4%	270	77.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	109	131	△22	△17.0%	185	58.9%



第2四半期決算のポイント

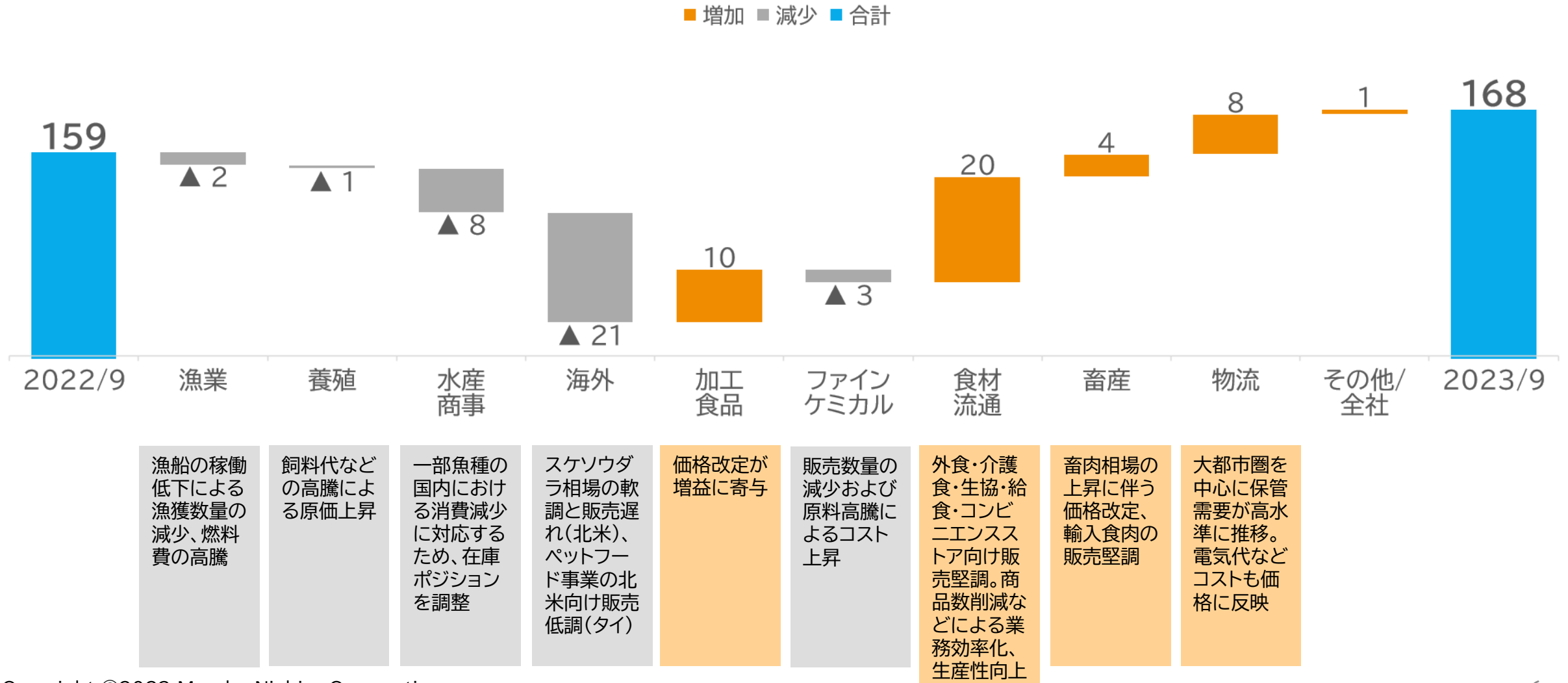
水産資源セグメントは、前年対比で減益であるものの、漁業ユニット以外のユニットでは計画以上の進捗。

- 漁業ユニットにおける漁船の稼働低下による漁獲数量減少と燃料費の高騰により、減益。
(漁業ユニット営業利益 △6億円、前年対比 △2億円)
- 海外ユニットのスケソウダラ事業(北米)は、相場が軟調に推移したほか、販売遅れが発生。
ペットフード事業(タイ)は、北米における販売先の在庫調整を受けて販売数量が減少し、減益。
(海外ユニット営業利益 44億円、前年対比 △21億円)

加工食品セグメント・食材流通セグメントは、大幅な増益。

- 前期より実施の価格改定が浸透したほか、商品の見直し・削減などによる業務効率化・生産性向上が奏功。
(2セグメント合計の営業利益 72億円、前年対比 +32億円)

営業利益の増減要因

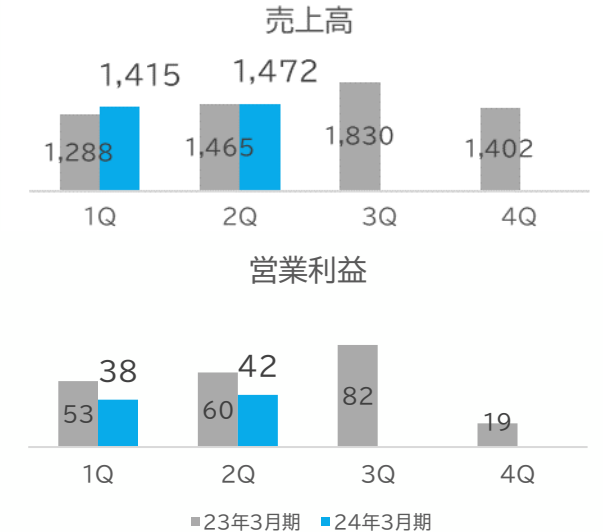


水産資源セグメント

一部魚種の在庫ポジションの調整および、ペットフード事業での販売先の在庫調整影響を受けて、29%減益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
漁業	183	168	15	+9.0%	△6	△4	△2	—
養殖	80	80	0	+0.5%	10	11	△1	△7.1%
水産商事	1,457	1,444	13	+0.9%	32	40	△8	△20.8%
海外	1,167	1,061	106	+10.0%	44	65	△21	△32.8%
セグメント計	2,887	2,753	134	+4.9%	80	113	△33	△29.2%



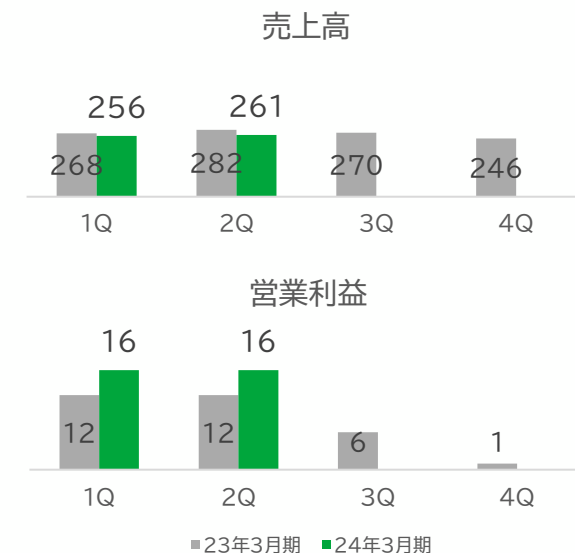
- **漁業** メロを始め、主要魚種の販売好調により増収となった一方、漁船の稼働低下による漁獲数量の減少や燃料費の高騰により減益。
- **養殖** ブリ・カンパチの販売数量増加および取扱魚種の販売価格が引き続き高値を維持し、売上は前年並みを維持。飼料代など的高騰による原価上昇により減益。
- **水産商事** 水産物全般の相場が高値継続し、売上は前年並み。一方、一部魚種の国内における消費減少に対応するため在庫ポジションを調整し、減益。
- **海外**
 - <北米> スケソウダラ資源の増枠もあり供給は増えたものの、相場が軟調に推移したほか、販売遅れと単価下落が発生し、増収減益。
 - <欧州> 前期に子会社化した企業が堅調に推移し、増収増益。
 - <アジア> ペットフード事業が、主要販売先である北米での在庫調整を受け、販売が低調に推移し、減収減益。

加工食品セグメント

加工食品ユニットでの価格改定の浸透により、全体で32%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
加工食品	481	510	△ 29	△5.7%	27	16	10	+63.2%
ファインケミカル	37	40	△ 4	△8.8%	5	8	△ 3	△32.1%
セグメント計	518	550	△ 32	△5.9%	32	24	8	+32.1%



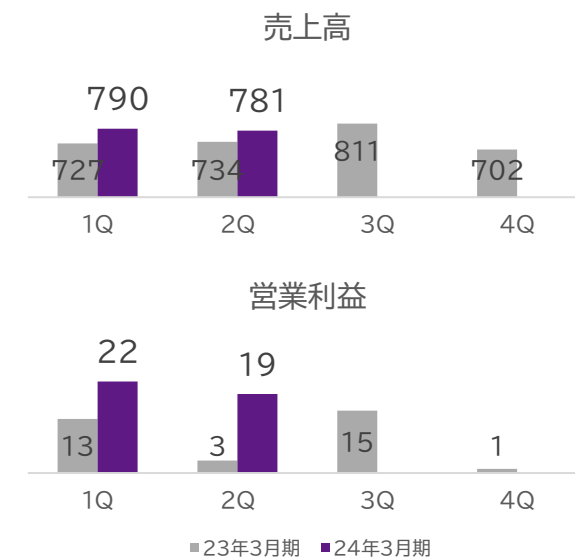
- **加工食品** 消費者の節約志向の影響があり減収となった一方、利益面では原材料や円安による影響はあるものの、価格改定効果もあり増益。
- **ファインケミカル** 機能性表示食品制度の運用変更による販売数量減、およびペルーのアンチョビー禁漁による原料の高騰などにより、減収減益。

食材流通セグメント

価格改定の浸透に加え、業務効率化や生産性向上が奏功し、全体で158%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
食材流通	1,084	1,043	41	+4.0%	32	12	20	+174.2%
畜産	488	418	69	+16.6%	8	4	4	+108.6%
セグメント計	1,572	1,461	111	+7.6%	40	16	25	+157.6%



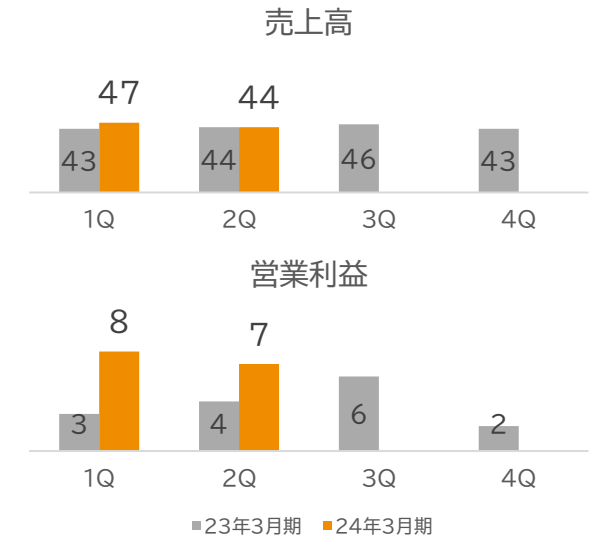
- **食材流通** 外食・介護食・生協・給食・コンビニエンスストア向けなどへの販売が堅調に推移。また、前期に実施した価格改定が浸透したことに加え、商品数の削減などによる業務効率化・生産性向上などに努めた結果、増収増益。
- **畜産** 全般的な畜肉相場の上昇に伴った畜肉製品販売価格の改定実施、および輸入食肉の販売が堅調に推移し、増収増益。

物流セグメント

保管需要を着実に取り込み、106%増益。

(単位:億円)

ユニット	売上高				営業利益			
	23年9月期	22年9月期	前年対比		23年9月期	22年9月期	前年対比	
			増減	増減率			増減	増減率
物流	90	87	4	+4.2%	15	7	8	+105.8%



- **物流** 大都市圏を中心に在庫数量が高水準で推移したことに加え、電気料金などのコスト上昇を価格に反映したことにより、増収増益。

通期の見通し・施策

通期の見通し

- 円安により水産物相場は高止まり。調達コスト高が続くため、在庫の回転率を意識する。
- 食品は、前期に実施の価格改定が寄与し、下期も増益を見込む。

(単位:億円)

	23年9月期	24年3月期 (計画)	年間計画比
売上高	5,074	9,800	51.8%
営業利益	168	270	62.1%
経常利益	209	270	77.5%
親会社に帰属する当期純利益	109	185	58.9%

水産資源セグメント

漁業と海外は、引き続き厳しい事業環境を予想。

(単位: 億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	183	168	15	458	40.0%	△ 6	△ 4	△ 2	26	—
	養殖	80	80	0	142	56.5%	10	11	△ 1	2	512.5%
	水産商事	1,457	1,444	13	2,680	54.4%	32	40	△ 8	39	82.0%
	海外	1,167	1,061	106	2,327	50.1%	44	65	△ 21	106	41.1%
	セグメント計	2,887	2,753	134	5,608	51.5%	80	113	△ 33	174	45.8%

- **漁業** 厳しい事業環境は継続。燃油コスト抑制や操業体制の見直し、自社加工度を高めるなど販売ルートが多様化により、収益性を向上させる。
- **養殖** 燃料・飼料代の高騰による原価上昇、ブリ相場下落を懸念⇒配合飼料の見直しを含むコスト最適化や飼育技術の向上、安定取引先との取組み強化により影響緩和に努める。マグロを含めた、グループ内連携による販売多様化も進める。
- **水産商事** 一部商材が消費減少による販売価格下落傾向によって市場での先安観が広まる一方、調達コストは円安によって高止まり。在庫管理を徹底し、安定した利益を確保するとともに、価格の調整局面に際し、新規調達先および販売先の獲得をめざす。
- **海外**
 - <北米> スケソウダラ相場は軟調継続。生製品の早期販売を徹底するほか、工場要員の最適配置と生産効率向上によるコスト抑制を図る。
 - <欧州> インフレの継続により、低価格帯へ消費シフトし業務筋向けは販売低調。量販ルートを中心に拡販を強化し、収益確保に努める。
 - <アジア> 販売先での在庫調整は、下期より回復傾向。商品開発による競争優位性を高めるほか、販路開拓で販売数量維持に努める。

加工食品セグメント

需要や環境の変化に対応し、増益をめざす。

(単位: 億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
加工食品	加工食品	481	510	△ 29	1,036	46.4%	27	16	10	33	80.5%
	ファインケミカル	37	40	△ 4	80	46.0%	5	8	△ 3	14	38.1%
	セグメント計	518	550	△ 32	1,117	46.3%	32	24	8	47	67.9%

- **加工食品** 消費者の節約志向に伴い、数量は前年割れが続くものの、単価アップにより収益は前年を上回る見込み。
原材料・資材などのコストアップや円安の進行がある場合は、適宜商品の見直しや価格改定を検討。
- **ファインケミカル** 既存商品での機能性表示食品の表示適格取得や、医薬原薬(EPA、ヘパリン)の取扱い拡大に向けて取り組み中。
「予防食、未病食」分野は、食品分野への展開をめざし「無臭DHA」を開発中。今後、介護食品をはじめとした加工食品への展開をめざし、グループ内連携を図る。

食材流通セグメント

販売チャネルごとにおける環境の変化に対応し、増益をめざす。

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
食材流通	食材流通	1,084	1,043	41	2,125	51.0%	32	12	20	29	110.6%
	畜産	488	418	69	761	64.1%	8	4	4	9	91.6%
	セグメント計	1,572	1,461	111	2,886	54.5%	40	16	25	38	106.1%

- 食材流通 円安や地政学的リスクなどによる原材料・エネルギー価格などの高騰リスクはあるものの、環境の変化に対応し、通期での大幅な増益をめざす。
- 畜産 調達コスト上昇を理由に販売価格が高値推移し、低価格志向の市場ではより安価な畜種・商品へ需要がシフト。輸入牛・豚における業界全体の在庫が増加し、鈍い荷動きが予想される。国内外の多様な調達網を活用して市場ニーズに対応するほか、グループ内連携を進めることで収益力の最大化を図る。

物流セグメント

逼迫する保管スペースの需要に応じた確保と積極的な集荷に努め、売上拡大をめざす。

(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
物流	物流	90	87	4	186	48.6%	15	7	8	15	99.8%

- **物流** 低調に推移する荷動きや保管スペースがタイトであることによる搬入量の減少が懸念されるものの、価格改定による増収効果、および電気・ガス価格の激変緩和対策の継続を含めた動力費の負担軽減もあり、前年対比で増収増益の見通し。
下期も継続して、保管需要に応じた保管スペースを確保するほか、スポット貨物を含めた積極的な集荷に努め、売上拡大を図る。

Appendix

2024年3月期 第2四半期 連結損益計算書

(単位:億円)

	23年9月期	22年9月期	増減	主な内容
売上高	5,074	4,852	221	
売上原価	4,377	4,170	207	
売上総利益	696	682	14	
販売費・一般管理費	529	523	5	
営業利益	168	159	8	
営業外収益	60	65	△ 5	為替差益(26)
営業外費用	19	12	7	
経常利益	209	212	△ 3	
特別利益	2	25	△ 23	
特別損失	32	25	7	損害賠償金(2)、損害賠償損失引当金繰入額(16)
税金等調整前四半期純利益	179	212	△ 33	
法人税等	56	54	2	
非支配株主に帰属する四半期純利益	14	27	△ 13	
親会社株主に帰属する四半期純利益	109	131	△ 22	

2024年3月期 第2四半期 連結貸借対照表

(単位:億円)

	23年9月末	23年3月末	増減	主な内容(前期末比)
流動資産	4,202	3,926	276	現預金(△20)、売上債権(+166)、棚卸資産(+116)
固定資産	2,525	2,446	79	有形固定資産(+11)、無形固定資産(+13)、投資有価証券(+42)
資産合計	6,727	6,372	355	
流動負債	2,637	2,654	△18	仕入債務(+51)、短期借入金(△152)
固定負債	1,776	1,593	184	社債(+130)、長期借入金(+61)
負債合計	4,413	4,247	166	
株主資本	1,713	1,636	76	利益剰余金(+76)
その他包括累計	234	147	87	
非支配株主持分	367	342	25	
純資産合計	2,314	2,125	189	
負債純資産合計	6,727	6,372	355	
有利子負債	3,050	3,011	38	(社債+130を含む)
自己資本比率	28.9%	28.0%	1.0	

【資産の増加+355億円】

- ・魚介類・畜産物の販売好調による売上債権の増加
- ・季節要因(北米スケソウダラ、他)による棚卸資産の増加
- ※在外子会社資産の為替換算影響+163億円含む(円安)

【負債の増加+166億円】

- ・運転資本の増に伴う有利子負債の増加
- ・仕入債務や営業未払費用の増加

<ご参考:22年9月末>

有利子負債 3,137億円
自己資本比率 26.6%

2024年3月期 第2四半期 連結キャッシュ・フロー計算書

(単位:億円)

	23年9月期	22年9月期	増減	主要内容
営業活動による キャッシュ・フロー	89	△ 305	393	<ul style="list-style-type: none"> ・税金等調整前四半期純利益 (+179) ・減価償却費(のれん含む) (+87) ・売上債権の増減額<増加:△> (△139) ・棚卸資産の増減額<増加:△> (△57) ・仕入債務の増減額<減少:△> (+27) ・その他流動負債の増減額<減少:△> (+29) ・法人税等の支払額 (△39)
投資活動による キャッシュ・フロー	△ 57	△ 182	124	<ul style="list-style-type: none"> ・有形固定資産の取得による支出 (△61) ・無形固定資産の取得による支出 (△9) ・利息及び配当金の受取 (+10)
財務活動による キャッシュ・フロー	△ 69	442	△ 511	<ul style="list-style-type: none"> ・短期借入金の増減<減少:△> (△151) ・長期借入金の増減<減少:△> (+15) ・社債発行による収入 (+129) ・配当金の支払額 (△33) ・非支配株主への配当金の支払額 (△12) ・利息の支払額 (△15)
現金・現金同等物の 期末残高	312	219	93	—

2024年3月期 第2四半期 セグメント・ユニット別 実績

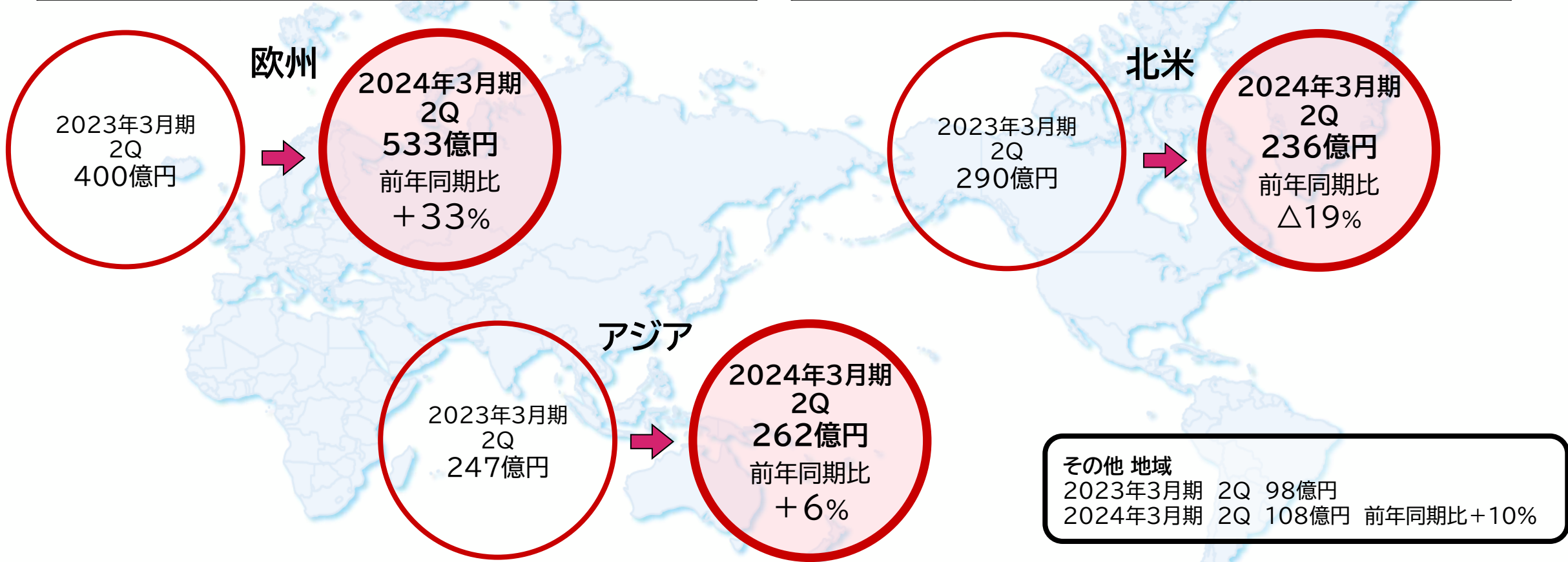
(単位:億円)

セグメント	ユニット	売上高					営業利益				
		23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比	23年9月期	22年9月期	増減	年間計画	年間計画比
水産資源	漁業	183	168	15	458	40.0%	△ 6	△ 4	△ 2	26	—
	養殖	80	80	0	142	56.5%	10	11	△ 1	2	512.5%
	水産商事	1,457	1,444	13	2,680	54.4%	32	40	△ 8	39	82.0%
	海外	1,167	1,061	106	2,327	50.1%	44	65	△ 21	106	41.1%
	セグメント計	2,887	2,753	134	5,608	51.5%	80	113	△ 33	174	45.8%
加工食品	加工食品	481	510	△ 29	1,036	46.4%	27	16	10	33	80.5%
	ファインケミカル	37	40	△ 4	80	46.0%	5	8	△ 3	14	38.1%
	セグメント計	518	550	△ 32	1,117	46.3%	32	24	8	47	67.9%
食材流通	食材流通	1,084	1,043	41	2,125	51.0%	32	12	20	29	110.6%
	畜産	488	418	69	761	64.1%	8	4	4	9	91.6%
	セグメント計	1,572	1,461	111	2,886	54.5%	40	16	25	38	106.1%
物流	物流	90	87	4	186	48.6%	15	7	8	15	99.8%
	その他	7	2	5	4	175.0%	5	1	3	2	237.5%
	全社	—	—	—	—	—	△ 4	△ 2	△ 2	△ 6	—
	合計	5,074	4,852	221	9,800	51.8%	168	159	8	270	62.1%

2024年3月期 第2四半期の海外売上高

海外売上高	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期 (中計最終年度)
	1,035億円	1,139億円	2,150億円

海外売上高 比率	2023年3月期 2Q	2024年3月期 2Q	2025年3月期 (中計最終年度)
	21.3%	22.4%	22.4%



統合報告書2023・サステナビリティレポートを発行しました

MNV創造を推進するガバナンス

コーポレート・ガバナンス座談会

中興創業計画年度を機に、MNV向上をめざすマルハニチログループのガバナンスについて、社外取締役が果たす役割のほか、社内取締役はいかに果たすべきか、社外取締役の2名と代表取締役社長の対談、代表取締役副社長執行役員の中澤による座談会を実施しました。

コーポレート・ガバナンスが果たす役割とは

中興創業計画年度を機に、MNV向上をめざすマルハニチログループのガバナンスについて、社外取締役が果たす役割のほか、社内取締役はいかに果たすべきか、社外取締役の2名と代表取締役社長の対談、代表取締役副社長執行役員の中澤による座談会を実施しました。

池見 賢 × 飯村 北 × 奥田 かつ枝 × 半澤 貞彦

MNV向上を見据えたマルハニチロのガバナンスとは

中興創業計画年度を機に、MNV向上をめざすマルハニチログループのガバナンスについて、社外取締役が果たす役割のほか、社内取締役はいかに果たすべきか、社外取締役の2名と代表取締役社長の対談、代表取締役副社長執行役員の中澤による座談会を実施しました。

コーポレート・ガバナンスが果たす役割とは

中興創業計画年度を機に、MNV向上をめざすマルハニチログループのガバナンスについて、社外取締役が果たす役割のほか、社内取締役はいかに果たすべきか、社外取締役の2名と代表取締役社長の対談、代表取締役副社長執行役員の中澤による座談会を実施しました。

Maruha Nichiro Value (MNV) 創造プロセス

マルハニチログループは、本業・安心・健康の「食」を要する一方で、人々の豊かなくらししめを旨とす。当社グループの成長とサステナブルな社会の実現を目指しています。経営戦略とサステナビリティの統合を図り、Maruha Nichiro Value (MNV) の最大化に取り組んでいます。

インプット

- 財務資本: 1,150億円
- 製品資本: 57ヵ所
- 人的資本: 約1,000億円
- 社会的資本: 16億円
- 自然的資本: 3ヵ所
- 社会的資本: 12,843名
- 人的資本: 97%
- 社会的資本: 約136ヵ所
- 社会的資本: 1,000社
- 社会的資本: 3,000
- 社会的資本: 1,000社

マルハニチロの強み

- 世界唯一の水産資源アクセス力
- 主要漁獲地域に立脚する物流インフラ
- 国内外的多様な販路チャネル
- 顧客ニーズに応える多様な食品加工製造技術
- ユニタス間の連携が生み出すマルハニチロの強み
- 天然水産資源の負荷を低減する気候技術

経営戦略とサステナビリティの統合を図り、MNVの最大化に取り組んでいます。

マルハニチログループ理念

MNV創造を実現するマルハニチロの強み

世界唯一の水産資源アクセス力

世界人口の拡大や健康志向の高まりから、水産物の需要が高まっています。水産物の需要に先回り供給が求められるなか、「世界タンパク源の水産会社」として国連食糧農業機関(FAO)が指定する主要な漁獲海域すべてから水産物を調達しているネットワークは、マルハニチログループの強みです。限りある天然資源の賦存を精査しつつ「FAO-47(水産資源評価)」、水産資源アクセス強化を推進しています。

すべてのFAO主要漁獲海域から調達

マルハニチロの水産資源アクセスを取り巻くリスクと機会

- リスク: 海外漁場の競争激化、海外漁場での漁獲量の減少
- 機会: 海外漁場の競争激化による漁獲量の増加、海外漁場の競争激化による漁獲量の増加

高まっている世界の魚介類需要

- 世界の水産物消費・生産量: 2022年 約1.6倍 → 178億トン
- 1人当たりの消費量: 2022年 約2倍 → 20.2kg

世界の主要水産物・生産量

- マグロ: 約400,000トン
- タラシ: 約1,000トン
- スズキ: 約12,000トン
- クロマグロ: 約6,000トン
- マダコ: 約4,000トン
- アジ: 約27,000トン
- アサヒ: 約2,000トン
- イサナ: 約5,300トン
- アサヒ: 約800トン
- アサヒ: 約6,000トン

アクセス強化の取組み 1

NZ持分法適用関連会社での新船建造

アクセス強化の取組み 2

大津エーアンドエフ子会社(株)下関漁港における新船建造

アクセス強化の取組み 3

Austral Fisheries社におけるスナッパーの漁獲および漁船追加取得

マルハニチログループの強み

経営戦略とサステナビリティの統合を図り、MNVの最大化に取り組んでいます。



<https://www.maruha-nichiro.co.jp/corporate/sustainability/report/>

統合報告書冊子版をご希望の場合は、下記までご連絡ください。
経営企画部IRグループ ir-info@maruha-nichiro.co.jp

お問い合わせ先

マルハニチロ株式会社 経営企画部 IRグループ
ir-info@maruha-nichiro.co.jp

Thank you



MARUHA NICHIRO

海といのちの未来をつくる

当資料に記載されております計画や見通し、戦略など歴史的事実でないものは将来の業績に関する見通しであり、これらは現時点で入手できる情報から得られた判断に基づいております。実際の業績は様々な重要要素により、これらの見通しとは異なる結果をもたらしうることをご承知おきください。また、本資料の著作権やその他書類にかかる一切の権利はマルハニチロ株式会社に属します。